

佳作

ぼくの弟

広島県 広島市立亀山南小学校二年 竹下 周蔵

ぼくの弟は、ぼくが、四さいのときに生まれまして。いま、弟は三さいです。いまは、はったり、あるいたりできるけど、〇さいのときは、ハイハイだけでした。一さいになってから、はじめてあるきました。そのときは、みんなよろこびました。そのときのようにすをビデオにとってあります。いまはそのビデオを弟も見えてわらっています。

ぼくの弟はなくけどすぐなきやむので、ぼくはつよいなと思います。ただねむたいときなどは、びっくりするほど大きなこえでなきます。まだまだチビすけだなどおもいます。

さいきんは、ひとりごとを言いながら、おもちゃであそんでいて、あそぶのもじょうずになってきました。ぼくがあそぶのをよく見ていてまねしてあそんでいます。しゃべるのもじょうずになってさいき

んはなまいきなこともよく言うようになりました。まだ三さいなのにぼくがべんきょうしているあいだは、テレビもがまんして一人でおもちゃであそんでくれているのでたすかります。

だけど、かたづけは、あんまりじょうずではないので、ぼくがべんきょうがおわったらいっしょにかたづけています。たまにがんばってかたづけるときは、とてもはやくかたづけることができるのでやればできるんだと思います。

ぼくと弟のかおは、お父さんによくにているといわれます。お母さんが言うには、せいかくはおなじではないそうです。ぼくは、しんちょうはで弟はだいたんなタイプです。

弟は、本がすきでぼくは、にがてです。ぼくも弟みたいに本がすきになりたいです。

ぼくは弟が生まれてよかったです。いっしょにあそべるし、けんかもするけどいっしょにいるとたのしくてかわいいです。男どうしなのですきなおもちゃやすきなあそびもにいています。まだ小さいからいろいろじょうずにできないこともあるけど、もっと大きくなったらいっしょにキャッチボールやサッカーをしたいたいとおもいます。